



ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を

**FUJIEDA ROTARY CLUB**  
**藤枝ロータリークラブ会報**  
 例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321  
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail [club1972@fujieda-rotary.org](mailto:club1972@fujieda-rotary.org)

会長：大塚 博巳 副会長：池ノ谷 敏正 幹事：森下 敏顯 副幹事：鈴木 舜光

### 第2032回

- ソング 我等の生業
- ソングリーダー 大塚 高弘君



【富士山】

写真提供：櫻井 龍太君

## 会長報告

大塚 博巳君

本日の例会は「マ・ナンダー・マウン・マウン」さんが見えになっております。後程の卓話をよろしくお願いたします。



過日(2/14)、静岡産業大学が例年開催しております冠講座交流会に私、森下幹事、平奉仕プロジェクト委員長の3名で参加いたしました。

これは、静岡産業大学として“冠講座の本年の慰労を兼ねた次年度に対するお願い”の会です。次年度の冠講座は学園として13団体を予定しており、情報学部(藤枝)としては、前期4月から3団体、後期9月から4団体の計7団体との事です。

藤枝ロータリークラブ、藤枝市役所、静岡放送・静岡新聞社、電通東日本、シャンソン化粧品、静岡銀行、東海ガスです。

三枝学長より、「学生にとって、冠講座の果たす役割は大きいので期待しています。」との挨拶がありました。

“2014 ソチ冬季五輪”の件ですが、

2月18日現在のメダル数は、「金1個、銀3個、銅2個」です。

10代の選手から、41歳の葛西選手まで、年域の広さには驚かされます。また、ジャンプ団体選手達のチームワーク・・・親子ほどの年の離れたチームであっても、仲良く一つの目標に向かってる姿には感動いたしました。

日本選手に限らず、外国人選手のすべてが、もの凄い努力をされている“本当のアスリートの大会”であることを感じます。

残りの種目・選手にも期待をしたいと思います。

ロータリークラブの用語について

【ロータリー情報集(2005~2006)より抜粋】

### (1) クラブ協議会(クラブアッセンブリー)

クラブ役員、理事、及び各委員長の協議会で、奉仕プロジェクトや活動、会員増強・退会防止、地区大会や他の会合への出席などについて話し合い、また、会員の教育の場となり、会員の奉仕活動への関心を喚起することなどである。

年度中 4~6回のクラブ協議会を開くことが推奨されている。

①地区協議会の直後・・・会長エレクトが主催する。

②7月1日直後・・・年度計画について話し合い、採択する。

③公式訪問の2週間前

④公式訪問時・・・ガバナー補佐と地区ガバナーとクラブの現況を話し合う

⑤ロータリー年度の半ば・・・目標への進捗状況と年度後半のクラブ・プログラムの決定

⑥地区大会の後・・・クラブ計画を完了させるためのアイデアや提案について話し合う。クラブの他の会員の出席も歓迎される。

※文中の「ガバナー補佐」は2013年より「アシスタントガバナー」にまた「地区協議会」は「地区研修・協議会」に名称変更されている。

### (2) クラブ会報

各クラブは会報を発行しなければならない。毎週の週報が普通であるが、週報のほかにも月報、年報も刊行しているクラブもある。

その目的は、例会をはじめ諸会合のハイライトを記録し、クラブ・プログラムを予告し、RI・地区のロータリ

ー・プログラムについて報告することなどにより、出席の向上と、親睦の増進と、ロータリー教育に寄与し、併せて正確な記録を保存することにある。従って楽しく、読みやすく、ロータリーの四大奉仕が具現されていることが望まれる。

※文中の「四大奉仕」は2011年より「五大奉仕」になっている。

以上、会長報告といたします。

## ■ 幹事報告 森下 敏顯君

- ・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会よりハイライト米山が届いております。
- ・ザ・ロータリアン誌2月号が届いております。

## ■ 出席報告 河井 宏文君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
34/41 82.93%	34/41 82.93%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○石垣君 ○菅原君 ○鈴木透君 ○仲田廣君  
大杉君 落合君 仲田晃君

## ■ 外部卓話

奉仕プロジェクト委員会 担当卓話  
マ・ナンダー・マウンマウン様



- ②ミャンマーの基本情報
- ③現在ミャンマーへ進出している日本企業
- ④福祉のあり方と現状
- ⑤ハルモニアの紹介

### ②ミャンマーの基本情報

ミャンマーは人口5,300万人で、面積は日本より1.8倍大きい。国民の約90%は仏教を信仰しており、その他にキリスト教、イスラム教など。東南アジアの最西端に位置するミャンマーは歴史的に日本と大変深い関わりのある国である。日本でミャンマーの本当の姿は知られていない。残念なことに「ミャンマー＝怖い」とイメージされている方も少なくないが、実際は穏やかな国民が暮らしている国である。

### ③ミャンマーへの進出企業

ミャンマーに進出している日本企業は、2013年10月末時点で156社  
2010年には52社だったが、現在は3倍に急増している。

その中、「卸売業」49社、「サービス業」29社、「製造業」27社、「運輸・通信業」21社。主な日本企業としては、①スズキ自動車製造②富士ゼロックスフイス機器製造③ユニ・チャーム各種日用品販売④アスモ自動車部品製造⑤王子ホールディングス持ち株会社である。

### ④ミャンマーの福祉のあり方と現状

日本では、人口の1000人当たり医師数は2.1人。ミャンマーでは0.3人であり、看護師の場合日本は0.9。ミャンマーは0.3の数でかなり不足の状態である。

アジア太平洋地域の国々の中でも特に遅れている為、生活保護制度、障害者支援制度ではなく、子どもは幼少期から働き手となり教育を受ける機会を失う事なども少なくない。ミャンマーの障害者は、障害者自身が背負った一時的障害のほかに、社会的に作られた二次的障害も抱えており、その原因に、ポリオ、地雷による損傷、事故、先天性脳性マヒ等が挙げられる。ミャンマーには障害の特定の定義ないが、人口の約3%から5%を占める障害者がいると推定されている。

現在、日本では、障害者や高齢者児童などにに対し様々な補助制度サービスがあり、家族の負担がほとんどなくなる。障害を抱える本人自身からも通える施設や職場が明確である。ミャンマーでは、福祉環境を充実するため今の政権もできるだけ力を入れていますが、政府だけではなく国民一人一人の力、周辺国の指導や援助、理解や協力が必要。

### ⑤ハルモニアの紹介

ハルモニア成人部門の主な機能、動き等



<産業大学冠講座交流会>



(担当/池谷君)